



7/9 (水) 遺伝子実験センター セミナー室 13:30-15:00

ZFN 技術を用いた新植物育種への応用

高橋 靖幸 氏 ダウ・ケミカル日本(株)

ダウ・アグロサイエンス事業部門 研究開発本部

概要

近年、「新ゲノム改変技術」と呼ばれる Zinc-Finger Nuclease (ZFN) や Transcription Activator-Like Effector Nuclease (TALEN) が開発され、標的型の変異誘発による品種改良法として注目されています。これらの技術は、自然環境下で生じる変異や従来の変異誘発技術の延長であり、さらに一歩進んで植物ゲノムの精密な改変を可能にします。また、これまでの変異誘発技術を用いた品種改良とは異なり、ZFN や TALEN は知識集約型の精密技術であり、事前に決定した特定のゲノム領域を標的とした変異誘発や任意の DNA 配列の導入を、これまで以上に短時間で、費用効率よく実現することができます。

現在、ダウ・アグロサイエンス社では、ZFN 技術 (EXZACT™) の開発を行っています。本セミナーでは、ZFN 技術を用いた作物開発の現状、そして本技術によって開発された作物の取り扱いについての国際的な規制の見解についてご紹介します。



問い合わせ先 遺伝子実験センター
下野綾子 91090

